

「居場所プロジェクト」の活動報告

(1)「ふれあいゆるカフェ」企画後の協議報告

6/22(土)「ふれあいゆるカフェ」開催！

- 目的**
- ⇒ターゲットは絞らず、催しを通してまずは居場所プロジェクトの取組を知ってもらう。
 - ⇒参加体験型にして関わる人を増やしていく。
 - ⇒今回の企画をきっかけに、今後の方向性を検討していく。



◆第3回目協議内容◆

・6/22実施の「ふれあいゆるカフェ」振り返り

⇒幅広いかたに参加してもらえたが、①参加者が何の目的を持ってきたのか、②何故盛況だったのかについて分析

<アンケート集計より>

⇒内容に興味を持ち、参加されるかたが多かった。
⇒メンバーが各機関で関わっているかたや、居場所づくりに興味のあるかたに来てもらえた。

事前にボードゲームに関する問合せも有

参加者

・ボードゲームに興味がある・障がい・高齢・居場所づくりをしている・居場所づくりに興味がある・個別で声をかけられた

・今後の活動の検討

⇒ターゲット:孤独・孤立を感じており、社会や地域とつながりを持ちたいかた

◇担い手として役割を持って参加してもらう方が参加しやすいと思うが、ターゲットを見つけるのが難しい。

◇もう一度カフェ形式の居場所を開催するのか、後方支援や居場所情報の共有をするのかを検討していく。

◆第4回目協議内容◆

・「居場所プロジェクト」の本来の目的について再確認

- ①居場所情報の周知
- ②ができるれば
- ②居場所情報の共有
- ①もできるのでは？
- 居場所の共有ができるプラットフォームづくり
- ③居場所の創設
- 「ゆるカフェ」を実践。場所やスタッフの確保が難しく、企画を継続することは困難と決断。

・色々な分野の居場所づくりをしている団体、興味がある人をつなぐ

- ⇒イメージは「こえる場！」
- ⇒PTメンバーも居場所を知ることで、居場所の周知やニーズの把握につながる。
- ⇒居場所の担い手同士の助け合いにつながるといい。
- ⇒実施するのであれば、地域支え合い推進員と協働でしたい。



◆第5回目協議内容◆

・地域支え合い推進員が把握する類似活動について聞き取り

- フードドライブ交流会⇒地域で活動する「食」にまつわる登録団体を対象に、情報交換や交流の場を提供。居場所づくりの新たな担い手にはつながっていないが、子ども食堂・地域食堂間では調理手伝い等で関係性が深い団体もある。
- 課題:高齢化などによる担い手不足⇒若い世代をどう巻き込むか？

- その他の活動⇒一芸披露会、地域福祉アクションアワード、プラスワン(常設居場所)

・居場所の共有プラットフォームづくりと地域支え合い推進員との協働の可能性について

- ⇒地域支え合い推進員は、地域に出向き、住民の活動や社会資源を把握したり、住民同士の話し合いの場づくりに取り組んでいる。

- ⇒まずは、分野やターゲットを絞って、そこに興味のある団体等とのつながりづくりを一緒にしてはどうか？

(2)今後の取組概要

・地域支え合い推進員を通じて、地域の団体にひきこもり等の居場所について一緒に考えることに興味があるか？を聞いてもらえるか検討。

⇒居場所プロジェクトに参加していない地域支え合い推進員から聞き取りをしてもらうため、地域支え合い推進員への伝え方やどのように聞いてもらうのかを検討する。

⇒興味がある団体があれば、ひきこもりの現状を知つてもらい、社会参加の一環としての受け入れは可能か？などを話し合う交流会などを検討。

◆プロジェクト参加機関

区分	所属	氏名
商工、労働機関関係者	阪神南障害者就業・生活支援センター 主任就業支援担当	藤川 喜正
障がい者相談支援関係者	芦屋市障がい者基幹相談支援センター センター長	三芳 学
若者相談関係者	(福)芦屋メンタルサポートセンター 相談支援事業所長	石田 享子
福祉団体関係者	(福)芦屋市社会福祉協議会	針山 大輔
生活困窮者自立支援関係者	(福)芦屋市社会福祉協議会 相談支援員兼就労支援員	黒田 樹里
	(福)三田谷治療教育院 就労準備支援担当	佐藤 久愛
	(福)三田谷治療教育院 社会参加推進事業担当	山際 純輝
地域づくり支援関係者	(福)芦屋市社会福祉協議会 第1層地域支え合い推進員	寺岡 康世
市民参画活動支援団体関係者	特定非営利活動法人あしやNPOセンター	株本 就子

所属	氏名
こども福祉部福祉室地域福祉課	主幹（地域共生推進担当） 吉川 里香
	地域福祉係長 亀岡 菜奈
	地域福祉係 島田 友美